

# 記載例(申込書)

(畑作物産地形成促進事業(令和8年産))

# 申込書の記載例(項目1、2)

(様式第14-4号:参考様式)

畠作物産地形成促進事業 取組計画書

締切: 令和〇年〇月〇日 ( )

※ 必要事項を記入して、當農計画書を提出している地域農業再生協議会へ提出してください。

農業再生協議会長 殿

## 1. 申込者 必須

フリガナ	▲▲ ▲▲
氏名又は法人・組織名	〇〇 〇〇
フリガナ	
代表者氏名(法人・組織のみ)	
住所	(〒〇〇〇-〇〇〇〇) 〇〇県〇〇市〇〇町1-2-3

## 2. 取組品目・面積 必須

- ▽ 事業で取り組む品目に✓を入れてください。
- ▽ 作付面積、事業取組面積は、m<sup>2</sup>単位で、小数点以下切り捨ての数値を記載してください。
- ▽ 高収益作物に取り組む場合は、具体的な品目を記載してください。
- なお、高収益作物については、水田活用の直接支払交付金の産地交付金によって地域農業再生協議会等が当年度に支援を予定している品目が対象ですので、事前に地域農業再生協議会の事務局までご確認ください。
- ▽ 作付面積については、事業への取組品目以外でも作付する(した)場合はご記載下さい。

チェック欄 ※事業の取組品目に✓を入れて下さい	品目	前年産 作付面積 (m <sup>2</sup> ) ※事業の取組品目以外も作付した場合はご記入下さい	当年産 作付面積 (m <sup>2</sup> ) ※事業の取組品目以外も作付する場合はご記入下さい	当年産事業取組 ※			
				面積 (m <sup>2</sup> )	出荷・販売 契約数量 (kg)	うち、翌年産 ブロック ローテーション 取組面積 (m <sup>2</sup> )	【参考】 うち、飼料向け 面積 (m <sup>2</sup> )
麦	【新市場開拓向け】	0	0				
✓	【加工向け】	0	3,000	3,000	675	0	
大豆	【新市場開拓向け】	0	0				
✓	【加工向け】	10,000	20,000	15,000	1,500	2,550	
高収益作物	【新市場開拓向け】	0	0				
	品目:						
	品目:						
高収益作物	【加工・業務用】	1,000	3,000	2,000	9,000	0	
	品目:たまねぎ	1,000	3,000	2,000	9,000	0	
	品目:						
子実用とうもろこし		1,000	1,000				
	計:	13,000	30,000			2,550	

※・当年産作付面積と本事業取組面積は異なる場合があります。

- 「当年産事業取組」の面積欄には、低コスト生産等の取組を各品目で確実に3つ以上行う予定の面積(=支援対象面積)であって、実需者との契約取引に基づく出荷・販売数量に応じた面積を記載してください。
- 「翌年産ブロックローテーション取組面積」には、翌年度にブロックローテーションを予定している面積があれば記載してください。
- 「うち、飼料向け面積」には、子実用とうもろこしの事業取組面積のうち、飼料用としている分の面積を記載してください。(本項目は採択に影響を与えるものではありませんが、参考情報としてご記載願います)

- ・申請者の氏名、住所等を記載する。
- ・法人、集落営農の場合は代表者の記載も必要。

- ・✓を入れる(取り組む品目)のは、今回交付を申請する品目。

・前年とは令和7年、当年とは令和8年、翌年とは令和9年とする。

・前年産及び当年産作付面積は、今回交付を申し込まない品目でも、作付をする(した)場合は記入する(ポイント算定に必要)。

・麦、大豆の新市場開拓向けとしては、例えば輸出向けの麦・大豆のほか、輸出向けの味噌や醤油等などの加工品原材料として作付する場合に該当する。

・生産した麦、大豆の用途(新市場開拓向け又は加工向け)が分からぬ場合は、出荷・販売する集出荷業者や実需者等に確認する。

・品目毎の事業取組面積は、実需者との取引契約に基づき出荷・販売する数量相当の面積を地域の合理的な単収(※)を用いて算定する。

※ 麦、大豆、高収益作物については、地域又は農業者の直近5年間のうち、最大値・最小値を除いた3年間の平均単収。

・子実用とうもろこしに申請する場合は、取組面積のうち、飼料向けとして取組面積を記載する。

・高収益作物に取り組む場合は、具体的な品目を記載する(なお、水田活用の直接支払交付金の産地交付金によって地域農業再生協議会等が令和8年産に支援を予定している品目が対象)。

# 申込書の記載例(項目3)

## 3. 実需者※との契約の有無について 必須

※本事業における実需者とは、加工等を行う食品製造事業者や外食・中食業者のほか、輸出を代行する輸出事業者等です。  
 ▽取り組む品目毎に、(1)～(3)について該当する場合、具体的な実需者名((2)には、集出荷業者等名も併せて)を必ず記載してください。また、高収益作物については、具体的な品目も記載してください。  
 ▽添付書類として、集出荷業者等や実需者との販売契約書の写しや、契約を締結する計画等を提出してください。

		麦 〔新市場開拓 向け〕	麦 〔加工 向け〕	大豆 〔新市場開拓 向け〕	大豆 〔加工 向け〕	高収益作物 〔新市場開拓 向け〕	高収益作物 〔加工・ 業務用〕	子実用 〔うもよこし〕
(1)	実 需 者 名					品目名 〔 〕	品目名 〔たまねぎ〕	
(2)	集 出 荷 業 者 等 名					JA ○○		
(3)	加工 等 の 取 組 内 容					・皮むき、芯 抜き等の処 理・カット等 の一次加工		

上記表で実需者名等の欄が不足するなどの場合には以下に記載してください。  
 その場合、品目も併せて記載してください。

・高収益作物については、具体的な品目を記載する。

・取り組む品目毎に、必ず(1)、(2)又は(3)に該当している必要があるほか、必ず実需者名等を記載する。

・(1)及び(2)には、具体的な実需者名((2)には、集出荷業者等名も併せて)、(3)には、加工等の具体的な取組内容を必ず記載する。

・集出荷業者等や実需者との販売契約書の写しや、契約を締結する計画等について、当該申込書の提出時に添付が必要。

・実需者名が分からぬ場合は、集出荷業者等に確認する。

・上記表で実需者名等が書ききれない場合は、残りをこちらの欄に記載する。

# 申込書の記載例(項目4【麦】)

## 4. 実施する取組

※ 以下取組メニューのうち、畑作物本作化促進メニュー（排水対策、土層改良、均平作業、畦畔除去）の中から必ず1つ以上含めて、品目毎に3つ以上の取組メニューに✓を入れて下さい。  
※ 3つ以上の取組メニューとは別に「赤カビ病の防除」を実施してください。

### (1) 麦に取り組む方は記載 選択

番号	取組メニュー	麦 (新市場開拓向け)	麦 (加工向け)
必須	赤カビ病の防除	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
1	融雪促進	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	新たに導入した品種に応じた施肥（防除等を除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	難防除雑草対策（薬剤のみによる防除を除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	生育予測システムを導入する	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	効率的・効果的な耕作	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
6	新たに実施する農業機械の導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	新たに実施するスマート農業機器の活用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	土層改良 ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	畦畔除去 ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	均平作業（傾斜均平） ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	排水対策 ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
12	ほ場由来の温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	ほ場への炭素貯留	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	地域特認メニュー (○○○の実施)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
15	地域特認メニュー ( )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	地域特認メニュー ( )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

・取り組む品目毎に、畑作物本作化促進メニュー（排水対策、土層改良、均平作業（傾斜均平）、畦畔除去）の中から必ず1つ以上含めた上で、確実に実施する取組メニューを3つ以上選択して✓を入れること。

・麦については、3つ以上の取組とは別に、赤カビ病の防除に✓を入れ、赤カビ病の防除を実施すること。

・実際に行った取組メニューが3つ以上となるよう、ほ場の状況等により作業が不要となる可能性のある取組メニューを選択する際は注意すること。

（例えば、ドローンによる追加防除を実施する予定で「スマート農業機器の活用」を選択していたが、防除の必要性がなく実施せず、結果として取組数が3つ未満となった場合は、助成要件を満たさないこととなる。）

・取組メニュー毎の取組基準については、「低コスト生産等の取組メニューについて（畑作物産地形成促進事業）」を参照のこと。

・都道府県農業再生協議会が地域特認メニューを設定する場合は、それを選択することも可能。

# 申込書の記載例(項目4【大豆、高収益作物、子実用とうもろこし】)

## 4. 実施する取組

※ 以下取組メニューのうち、畑作物本作化促進メニュー（排水対策、土層改良、均平作業、畦畔除去）の中から必ず1つ以上含めて、品目毎に3つ以上の取組メニューに✓を入れて下さい。  
その際、「排水対策」として「心土破碎」又は「額縁明渠」を選択することも可能ですが、その場合は、これを除いた取組を3つ以上実施してください。

### (2) 大豆に取り組む方は記載 選択

番号	取組メニュー	大豆 (新市場開拓向け)	大豆 (加工向け)
1	大豆300A技術	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
2	難防除雑草対策（薬剤のみによる防除を除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	土壤診断等を踏まえた土づくり（化学肥料のみの施肥を除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	新品種の導入	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	効率的な施肥	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	均平作業（傾斜均平） ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	摘穂倍	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	畠間かん水	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9	化学肥料の使用量削減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	化学農薬の使用量削減	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
11	排水対策（心土破碎、額縁明渠を除く） ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	新たに実施する農業機械の共同利用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	新たに実施するスマート農業機器の活用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	土層改良 ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15	畦畔除去 ※畑作物本作化促進メニュー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	ほ場由来の温室効果ガスの削減	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20	( ) 畑作物 本作化 心土破碎、額縁明渠 ※畑作物本作化促進メニュー（3つの取組の対象外）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

・取り組む品目毎に、畑作物本作化促進メニュー（排水対策、土層改良、均平作業（傾斜均平）、畦畔除去）の中から必ず1つ以上含めた上で、確実に実施する取組メニューを3つ以上選択して✓を入れること。

・大豆、高収益作物、子実用とうもろこしについては、畑作物本作化促進メニューとして「心土破碎」又は「額縁明渠」を選択することも可能であるが、その場合は、これを除いた取組を3つ以上選択して✓を入れること。

（「心土破碎」と「額縁明渠」は「畑作物本作化促進メニュー」の対象となるが、「取組メニュー」の対象とはならない。）

・実際に行った取組メニューが3つ以上となるよう、ほ場の状況等により作業が不要となる可能性のある取組メニューを選択する際は注意すること。

（例えば、ドローンによる追加防除を実施する予定で「スマート農業機器の活用」を選択していたが、防除の必要性がなく実施せず、結果として取組数が3つ未満となった場合は、助成要件を満たさないこととなる。）

・取組メニュー毎の取組基準については、「低コスト生産等の取組メニューについて（畑作物産地形成促進事業）」を参照のこと。

・都道府県農業再生協議会が地域特認メニューを設定する場合は、それを選択することも可能。

### 畑作物本作化促進メニュー

- ・排水対策
- ・土層改良
- ・均平作業（傾斜均平）
- ・畦畔除去

# 申込書の記載例(項目5)

## 5. 確認欄 (以下の□に✓を入れ、署名をしてください) 必須

- 国の他の助成事業(当年産に係る事業(水田活用の直接支払交付金のうち産地交付金を除く))で支援を受けている又は受ける予定となっている取組は選択しておらず、補助金等の重複受給はありません。
- 本事業で支援を受けた水田の面積については、当年産の水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成(麦・大豆、飼料作物(子実用とうもろこし))の対象面積から除外されることについて了承します。
- 取組を実施しても、採択審査の結果、助成対象とならない場合があることにについて了承します。
- 出荷・販売契約書や出荷・販売伝票等の証拠書類を事業翌年度から5年間保管し、地域農業再生協議会や地方農政局等からの求めがあった場合には、提出します。
- 以下の場合には、交付金を返還すること、又は交付されないことに異存ありません。
  - ・本計画書に基づく内容において、虚偽の申請をしたことが判明した場合
  - ・正当な理由なく、本計画書に記載した対象作物を作付けていないことが判明した場合
  - ・本計画書に記載した対象作物について、必要な出荷・販売契約等の締結をしていないこと、適切な作付け・肥培管理・収穫等が行われていないことや、正当な理由なく、出荷・販売をしていないこと、その他交付要件を満たす取組が行われていないことが判明した場合
  - ・必要書類が保管されておらず、要件を満たすことが確認できない場合や提出を拒む場合
  - ・地域農業再生協議会等による適正な事業執行等のための調査に応じない場合

・5つの確認項目をよく読んで、同意できる場合はそれぞれ✓を入れる。

上記確認内容に同意すること、助成対象となった場合には、確実に取組を実施するとともに、取組の結果報告を行うことを誓約します。

令和 年 月 日 氏名

・左記の誓約事項に同意できる場合は、日付を記載し、署名を行う。

## 記載例(産地・実需協働プラン)

(畑作物産地形成促進事業(令和8年産))

一部のセルは自動計算されますが、必ず数値等の正誤を確認して下さい。

# 産地・実需協働プランの記載例

(様式第14-1号)※事業を実施する場合は添付必須

ver8.0

## 産地・実需協働プラン (畑作物産地形成促進事業)

黄色いセルの項目を直接記載する。(その他のセルの数値は自動計算される。)  
前年は令和7年、当年は令和8年、翌年は令和9年を指す。

作成年月日	令和8年〇月〇日
都道府県名	北海道
地域協議会名	〇〇農業再生協議会
代表者名	農林 太郎

### 1 産地・実需協働プランに参画する者

農業者	別紙の農業者別取組計画書のとおり
実需者	〇〇製粉(株)【麦加工】、△△食品(株)【馬鈴薯加工】、(株)××【トマト加工】、◎◎飼料【子実コーン】
集出荷業者等	JAOOI【販路の斡旋、営農指導】、△△商事(株)【販路の斡旋】、□□組合【販路の斡旋】
その他	〇〇市役所【事務局・各種情報提供】

※1 「農業者」及び「実需者」欄は必ず記載すること。

※2 各者の役割について、名称の後ろに括弧( )書きにて簡潔に記載すること。

### 2 新市場開拓や加工向け生産など、需に応じた生産等の取組の現状と今後の方針

【大豆(加工向け)】

<現状>

・当地域では、収益性の高い農業経営への転換を図るため、米・大豆等のブロックローテーションに取り組んでおり、「大豆」については、連作障害を抑制するために小麦の後作に大豆を取入れるなどして、今後においても安定的な生産確保が重要となっている。

・販売に関しては、株式会社を中心とした販売しているが、近年取り扱い数量が減っており、新たな販路開拓が必要な状況。

<今後の方針>

今後、担い手への農地集積が急速に進む状況を踏まえて、効率的作業を可能とする生産性の高い大豆の産地づくりを推進していく。また、実需者との密接な連携の下、需要が拡大基調にある品種への生産移行や、実需者の理解を得ながら耐性品種等への切り替えを早急に進め、単収の安定化を図る。

本事業申請の有無にかかわらず、地域農業再生協議会において、令和7年度に畠地化を行った、又は令和8年度に畠地化を行う予定のある農業者がいる場合は「有」を選択し、いない場合は「無」を選択する。

令和7年産に係る畠作物産地形成促進事業における「産地・実需協働プランに係る実施状況報告書」に記載する未達面積を記載する。

### 3 取組の内容等

#### ○低コスト生産等の取組

事業に申請する品目 に「✓」を記載	品目	前年度 作付面積 (m <sup>2</sup> )	当年産 作付面積 (m <sup>2</sup> )	当年産 における事業対象品目の 作付面積の拡大分 (m <sup>2</sup> )	当年産 における事業対象品目の 作付面積の拡大割合 (%)	面積 (m <sup>2</sup> ) ①	当年産取組						交付申請額 (千円)	配点基準の項目・ポイント ※2						
							ポイント算出用													
	麦(新市場開拓向け)	0	0			0	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
✓	麦(加工向け)	657,100	783,600	126,500	2,000	783,600	781,600	119%	340,398	693,200	90,400	12%	478,300	61%		31,344	6			
	大豆(新市場開拓向け)	0	0			0	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
✓	大豆(加工向け)	306,900	178,940	-128,060	-50%	178,940	178,940	58%	48,105	106,380	72,580	41%	73,900	41%		7,152	2	1	エラー	
	高収益作物(新市場開拓向け)	0	0			0	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
✓	高収益作物(加工・業務用)	28,300	23,500	-4,800	-17%	23,500	23,500	83%	55,700	0	9,500	40%	0	0	0	940	4	0	0	
✓	子実用とうろこ	212,300	237,590	25,290	11%	237,590	237,590	112%	185,272	237,590	25,300	11%	19,390	8%	0	237,590	9,740	3	0	
合計						1,204,600	1,223,630	19,030	2%							1,037,170	197,780	571,590	237,590	49,176

※1 取組品目毎に別紙の農業者別取組計画書を提出すること。

※2 ポイントについて、前年度事業に支援対象となつた協議会における低コスト生産等の取組面積の計画を達成できなかつた場合は、目標と実績の差分の面積を減じた上で評価すること(当年度の各面積と、差分の面積を引いた値を用いて申請ポイントを算出すること)。

前年産若しくは当年産における畠地化の有無

有

交付対象者数(実人数)(人)

10

※「交付対象者数(実人数)」欄には、品目毎の重複を除いた実人数を記載すること。

翌年度におけるブロックローテーション取組状況(%)

数値未入力 G59セルに数値を入力してください。

※ブロックローテーション状況(%)=翌年度のブロックローテーション面積/当年産の転換作物の作付予定面積として算出すること。

### 4 (参考)推進事業費(事務費)

推進事業(事務)に要する 経費(千円)	内訳				
	謝金	旅費	賃金及び 共済費等	事務等経費	委託費
250	50			200	

記入がなければ、「数値未入力」と表示される。

※様式外

(参考・様式外)翌年度におけるブロックローテーション取組状況・計算用

当年産 転換作物の作付予定面積(a)

※ 転換作物の作付予定面積は本プランに参画している農業者に限らず、当該地域農業再生協議会全体会員の数値を記載すること。  
具体的には、当年度の転換作物の作付予定面積は、作付計画面積を記載することとし、転換作物は、野菜作物、そば、なたね、新市場開拓用米、高収益作物、子実用とうろこ、地力増進作物を対象とすること。

転換作物の作付予定面積を記入する。

### 農業者別取組計画表の記載例

黄色いセルの項目を直接記載する。(その他のセルの数値は自動計算される。)

品目・仕向けごとで、令和5年産、令和6年産及び令和7年産の畑作物産地形成促進事業の交付対象となっておらず、本事業に新規に取り組む農業者は✓を選択する。

- ・例えば、令和5年産、令和6年産又は令和7年産で本事業の麦(加工向け)の交付対象となっていても、これまで交付対象となっていない大豆や麦(新市場開拓向け)等に取り組む場合は、新規対象者に該当するため✓を選択する。
  - ・令和7年産の本事業の麦(加工向け)の交付対象となっていない農業者であっても、令和5年産又は令和6年産の本事業の麦(加工向け)の交付対象となっている場合は、新規対象者にはならない。

地域計画の目標地図に位置付けられた申請者には✓を選択する。

別紙

# ○○農業再生協議会 農業者別取組計画表 【麦】(加工向け)

# 要望調査とりまとめ用シートの記載例

黄色いセルの項目を直接記載する。（その他のセルの数値は自動計算される。）

## ○ 低コスト生産

局等CD	管轄局	都道府県CD	都道府県名	協議会名	畑地化の有無	品目	前年産作付面積(m <sup>2</sup> )	当年産作付面積(m <sup>2</sup> )	当年産取組面積(m <sup>2</sup> )	前年度未達面積(m <sup>2</sup> )	当年産出荷・販売契約数量(kg)	翌年産ブロックローテーション取組面積(m <sup>2</sup> )
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	麦(新市場開拓向け)	0	0	0	0	0	0
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	麦(加工向け)	657,100	783,600	783,600	2,000	340,398	693,200
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	大豆(新市場開拓向け)	0	0	0	0	0	0
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	大豆(加工向け)	306,900	178,940	178,940	0	48,105	106,380
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	高収益TF物(新市場開拓向け)	0	0	0	0	0	0
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	高収益作物(加工・業務用)	28,300	23,500	23,500	0	55,700	0
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	○	子実用とうもろこし	212,300	237,590	237,590	0	185,272	237,590

## ○ 推進事務費

局等CD	管轄局	都道府県CD	都道府県名	協議会名	推進事務経費計(千円)	謝金(千円)	旅費(千円)	賃金及び共済費等(千円)	事務等経費(千円)	委託費(千円)	助成費(千円)	備考
1	北海道	1	北海道	○○農業再生協議会	250	0	50	0	200	0	0	

前年度事業の採択実績の有無

交付対象者数(実人数)(人)

当年度 転換作物の作付予定面積(a)

バージョン

備考

必要に応じて備考を記載する。

## 記載例(都道府県取組計画書)

(畑作物産地形成促進事業(令和8年産))

一部のセルは自動計算されますが、必ず数値等の正誤を確認して下さい。

# 都道府県取組計画書の記載例

様式第14-2号

ver8.0

## 都道府県取組計画書 (畑作物生地形成促進事業)

黄色いセルの項目を直接記載する。(その他のセルの数値は自動計算される。)  
前年は令和7年、当年は令和8年、翌年は令和9年を指す。

作成年月日	令和8年〇月〇日
都道府県協議会名	〇〇県農業再生協議会
代表者名	農林 次郎

### 1 都道府県全体としての新市場開拓や加工仕向け生産など、需要に応じた生産等の取組の現状と今後の方針

○大豆 <現状> ・輸入大豆と比較し、味、加工適正では優れているものの、供給の安定性やロット規模で劣っていると実需者から評価されていることが課題である。
<今後の対応方針> ・ほ場排水対策の計画的な実施のほか、実需者との契約栽培の拡大による安定的な需要の確保、道場診断による適正施肥の推進と病害虫の適期防除、適期収穫や適切な乾燥・調製などにより、生産性と品質の向上を図っていく。

### 2 都道府県全体の取組の内容目標等

#### (1)低コスト生産等の取組

事業に申請する品目に「✓」を記載	前年度事業で支援対象となつた品目があれば、「✓」を記載	品目	前年産作付面積(m <sup>2</sup> )	当年産作付面積(m <sup>2</sup> )	当年産における事業対象品目の作付面積の拡大分(m <sup>2</sup> )	当年産における事業対象品目の作付面積の拡大割合(%)	当年産取組					交付申請額(千円)	
							面積(m <sup>2</sup> )①	出荷・販売契約数量(kg)	①のうち、翌年産ブロックローテーション面積(m <sup>2</sup> )	①のうち、新規に取り組む農業者の取組面積(m <sup>2</sup> )	①のうち、地域計画の目標地図に位置付けられた農業者の取組面積(m <sup>2</sup> )		
		麦（新市場開拓向け）	0	0			0	0	0	0	0	0	
✓		麦（加工向け）	657,100	783,600			783,600	340,398	693,200	90,400	478,300	31,344	
		大豆（新市場開拓向け）	0	0			0	0	0	0	0	0	
✓		大豆（加工向け）	306,900	178,940			178,940	48,105	106,380	72,580	73,900	7,152	
		高収益作物（新市場開拓向け）	0	0			0	0	0	0	0	0	
✓		高収益作物（加工・業務用）	28,300	23,500			23,500	55,700	0	9,500	0	940	
✓		子実用とうもろこし	212,300	237,590			237,590	185,272	237,590	25,300	19,390	237,590	
			合計:	1,204,600	1,223,630	19,030	2%		合計:	1,037,170	197,780	571,590	237,590
													49,176

※ 地域農業再生協議会から提出のあった产地・実需協働プランに基づき、取組品目毎に別紙を提出すること。

交付対象者数(実人數)(人) 10

※「交付対象者数(実人數)」欄には、品目毎の重複を除いた実人數を記載すること。

翌年産におけるブロックローテーション取組状況(%) 数値未入力

※ ブロックローテーション状況(%) = 翌年産のブロックローテーション面積 / 当年産の転換作物の作付予定面積として算出すること。

#### 3-1 (参考)都道府県推進事業費(事務費)

推進事業(事務)に要する経費 計(千円)	内訳					
	謝金	旅費	賞金及び共済費等	事務等経費	委託費	助成費
0						

記入がなければ、「数値未入力」と表示される。

#### 3-2 (参考)地域農業再生協議会推進事業費(事務費)

推進事業(事務)に要する経費 計(千円)	内訳					
	謝金	旅費	賞金及び共済費等	事務等経費	委託費	助成費
250	0	50	0	200	0	0

※申請のあった当該地域農業再生協議会の推進事業費を積み上げて記載すること

※様式外

(参考・様式外)翌年産におけるブロックローテーション取組状況・計算用

当年産 転換作物の作付予定面積(a)

※ 転換作物の作付予定面積は、当該都道府県が管轄する地域農業再生協議会から提出のあったプランに記載された数値を合算して記載すること。

転換作物の作付予定面積を記入する。

# 品目別取組計画表、地域農業再生協議会別推進事業費(事務費)一覧の記載例

表題の黄色いセルの項目を直接記載する。

行ごとに、各地域農業再生協議会の産地・実需協働プランの「都道府県計画貼り付け用シート」からコピーして値で貼り付ける。

別紙

○○県農業再生協議会 品目別取組計画表  
【麦】(加工向け)

番号	地域農業 再生協議 会名	前年産若し くは当年産 における畠 地化の有無 (有る場合 は○を記 載)	前年産 作付面積 (m <sup>2</sup> )	当年産 作付面積 (m <sup>2</sup> )	当年産 取組面積 (m <sup>2</sup> )	当年産 出荷・販売 契約数量 (kg)	翌年産 ブロック ローテーション 取組面積 (m <sup>2</sup> )	新規に 取り組む 農業者の 取組面積 (m <sup>2</sup> )	地域計画 の 目標地図に 位置付け られた 農業者の 取組面積 (m <sup>2</sup> )	交付 申請額 (千円)	交付対象 者数 (人)	配点基準の項目・ポイント					必須	低コスト生産等の取組 ※1 人数を記載 ※2 「(畠)」は畠作物本作化促進メ ニュー										前年 度 事業 の 採 択 実 績 の 有 無 (有 る 場 合 は ○ を 記 載)	備考				
												1	2	3	4	5		赤力ビ 病の 防除	融雪 促進	新品 種に 応じ た施 肥	難防 除雑 草	生育 予測シ ステム	施肥	共同 利用	ス マ ー ト農 業	土層 改良 (畠)	畦畔 除去 (畠)	均平 作業 (畠)	排水 対策 (畠)	温 室 効 果 ガ ス 削 減	ほ 場 への 炭 素 貯 留		
	合計	1	657,100	783,600	783,600	340,398	693,200	90,400	478,300	31,344	5						5	1	0	5	0	2	0	1	0	0	0	5	0	0	1	1	
1	○○市地域再生協議会	○	657,100	783,600	783,600	340,398	693,200	90,400	478,300	31,344	5	6	1	0	0	4	11	5	1	0	5	0	2	0	1	0	0	0	5	0	0	1	○
2																																	
3																																	
4																																	
5																																	
6																																	
7																																	
8																																	
9																																	
10																																	
11																																	

別紙

○○県農業再生協議会 地域農業再生協議会別推進事業費(事務費)一覧

番号	地域農業再生 協議会名	推進事業(事務)に要す る経費 計(千円)	内訳					備考
			謝金	旅費	賃金及び 共済費等	事務等経費	委託費	
1	○○市地域再生協議会	250	0	50	0	200	0	0
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								